

第5回入間市指定管理者候補選定委員会会議録

- 1 日 時 令和4年9月26日（月）10時00分～11時20分
- 2 場 所 入間市役所 5階 第2委員会室
- 3 出席者 委員長 濱川敦
委 員 岩田正博、浅見泰志、関谷佳代子、高梨雅樹、小林由利、平田和雄
所管課 地域振興課長 宇津木教芳、副主幹 金子篤、主任 田代高久
事務局 企画部次長 栗原康友、デジタル行政推進課長 糟谷寿孝、
主幹 齊藤謙治、副主幹 齋藤謙次郎
- 4 欠席者 なし
- 5 対象施設 入間市文化創造アトリエ
- 6 議 事

議 題

(1) 応募者によるプレゼンテーション

プレゼンに先立ち事務局から、次の説明を行った。

応募法人の資格要件のうち暴力団関係者の有無について、事務局において県警に照会したところ、応募のあった法人について、「該当は無い」との回答を得ている。

プレゼンについて、1法人あたり50分とする。時間配分は、プレゼン25分、質疑応答25分とする。仮にプレゼンが20分で終了した場合には、質疑応答を5分増やし、30分とする。質疑応答が早く終了した場合、50分に達していなくてもその時点で終了とする。

採点等については、5～1点の5段階で採点を行い、審査票は、10月4日までにデジタル行政推進課へ提出願いたい。

特定非営利活動法人入間市文化創造ネットワーク

応募書類を基に入間市文化創造アトリエに関する提案内容の説明の後、以下の質疑応答があった。

委 員 : 色々な事業を多く実施しているとの印象を受けた。「人づくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」とそれぞれの分野で事業を行っているとのことであるが、これまで指定管理を行ってきたなかでどういった成果があったのか。

応募者 : 15年に渡って管理を行ってきているが、最初のころはまさに「情熱」と「勢い」で市民運営を行ってきた。そのうち、「人づくり」「魅力づくり」「芽づくり」「まちづくり」という大きなキーワードのもとに文化振興を進めていこうと

いうことになった。「人づくり」については運営側の人づくりと、市民の文化振興に対する造詣を深めるという意味での人づくりの両方を進めようということになり、職員側は研修やイベント時での準備や片づけ等で直接お客様と触れずとも様々な仕事をする中で人づくりを進めてきた。お客様側は、初めは地域にお年寄りが多かったことからお年寄りを対象にした事業が多かったが、地域の将来を担う子ども達のために、アウトリーチ活動として学校に行ったり、子ども達にアミーゴに来てもらう事業をしたりすることで、幅広く人づくりができたと思っている。「魅力づくり」としては、アミーゴの魅力を高めるために広報を行った。

「芽づくり」はワークショップを中心にただ見るだけではなく体験してもらおうということで、普段できないアミーゴだからできることを体験してもらうために、特に「劇団アミーゴ」を作り表現の場を作った。「まちづくり」に関しては、コミュニティの場を作ろうということで、館の中ではなく館庭を使ったイベントを実施し、これまでにたくさんの事業ができるようになった。最初は40ぐらいの事業であったが、今では70を超える事業ができるようになった。

委員：収支計画書の内容について、自主事業収入として170万円と計上されているが、令和3年度の収支計算書の文化創造事業収入にあたる部分でよろしいか。文化創造事業収入には指定文化創造事業で250万円、法人自主文化事業で75万円とあわせて325万円とあるが、指定文化創造事業分は含めていないということか。

応募者：ここで書いたのは指定管理の収入ということで、これ以上に増やす努力をしてまいりたいが、指定管理で収入を得るという目標数値である。

委員：170万円というのは法人自主文化事業の分ということか。

応募者：法人自主文化事業のほうではなく、指定文化創造事業である。その部分でもっと収入が得られれば、法人自主文化事業の方にまわして新しい事業をやっているということである。

委員：今回のプレゼンテーションでは経営の部分の説明がなかったが、新規の事業としてシェアサイクルやカフェのオープン、テラスの設置等が示され、事業費もかかってくると思われる。収入面ではロケーションサービスを頑張るとのことだが、このあたりの経営感覚、どのぐらいの収入を確保してくか、収支のバランスをどのように考えているのかについてお聞かせいただきたい。

応募者：今職員で検討しているところであるが、週末に実施していきたいと考えている。また、我々が仕入れをして販売していくということではなく、入間市の中でこれから店を出したいとか、ケーキの販売をしたいという方が結構いる。またキッチン

ンカーで商売されている方、そういった方々にうまく活用してもらうことを考えている。要は自分たちでやるのではなく、そういった方に協力を得て、まさに市民参加、そんな感じでスタートしたいと思っている。

委員：さきほど市民力の向上を目指すとの説明であったが、これまでどのくらい市民力がアップしたと考えているか。

応募者：スタートした時点では10人ほどの人間で始め、それがNPO法人を立ち上げたときには80人になっていた。努力の結果と市民の皆さんがまちづくりに参加したいという強い思いがあったからだと思う。現在、少子高齢化ということもあり、お手伝いしたいという方も高齢化しているが、お手伝いしたいと声をかけてくれる方も結構いる。また文化事業に来たお客様の中から興味ありそうな方に声をかけ、一緒に事業をやらないかと誘うこともしている。そのおかげもあって、人数も増えていき、100人を超える人たちがこの法人の会員にもなってくれており、お手伝いもしてもらっている。そういった部分は自信持って市民力が向上したと思っている。

委員：開館時間が長い中で、職員が6名とパートが1名ということで、フレキシブルな勤務体制でマルチワークといった記載もあったかと思うが、特に現状で職員に負荷がかかっているとか、何か問題点はないか。また、残業が多くないのか、それから、年休は取れているのかといったところを、説明いただきたい。

応募者：初めはパート職員が多かったのだが、そうすると年間365日の間で6日間しか休まない施設を運営していくのは大変であることや、責任をもって業務にあたってもらおうということから正社員に変化していった。その結果、人件費が非常にタイトになっているが、職員がみな情熱をもってアミーゴが大好きだという気持ちで業務に取り組んでおり、うまくまわっている。ただ、これからはそうではなく、ちゃんとした休暇もとらせないといけない、社会保障もきちっとしなければいけないということで、3期目になってからはその方向に持ってくるようにした。最低賃金もすごい勢いで上がってはいるが、職員の生活のことを考えながらやってきたところである。休暇についてもしっかりとれるようにしている。もっと働きやすい、気持ちよく仕事ができるというふうにしていかなければならないと考えている。事業が増えてくるとあと1人くらいは増やさないと厳しいのかなとも考えている。また、世代交代も進んできているので、新しい職員も入れることも考えている。

委員：年次有給休暇の5日取得というのは労働局も力を入れているところなので、気をつけていただければと思う。この関連で、就業規則の別表に年次有給休暇の付

与日数が規定されていると思うが、法律では半年で10日付与しなければならないとされており、この別表のとおりでは満たされていない。見直しをお願いしたい。

また、事業計画を見ると、「職員の健康管理について、毎年の健康診断を怠らないようお願いしている。」とあるが、正職員と労働時間が4分の3以上あるパート職員は、会社が健康診断を受けさせる義務があるので、お願いベースではない。

応募者： 申し訳ありません。しなければならないことを理解した。ご指摘ありがとうございます。

委員： プレゼンテーションを聞き、市民ディレクターが重要であると認識したのだが、ディレクターの人件費は月4,000円となっている。ディレクターの仕事内容が掴めていないのだが、この金額は妥当なものなのか。それとも他に支払われるものがあるのか。

応募者： 月額でこの金額である。これは、アミーゴが指定管理になる前からこの金額だったということで20年間変わっていない。変えなければいけないとは思いますが、我々の裁量で変えてよいかを市と相談しながら考えたい。支払いとしては、これ以外に旅費や当日の運営に対して多少の支払いはあるが交通費程度である。ディレクターも金額ではなく情熱でやっているんだと言ってくれるところもあるが、考えなければならないことだと思っている。

委員： 今回の提案の中で、まちづくりとかコミュニティ、あるいは地域課題の解決といったことも役割だとの提案であったが、そういった点で具体的な地域課題の解決をどう考えているのか。また、市では令和5年度から公民館が地区センターとして地域づくりや地域コミュニティの再構築といった役割を担っていくことになるのだが、地区センター等市の施設との連携について考えていることがあれば教えていただきたい。

応募者： 地域課題で我々が一番に考えるのは、コミュニティが希薄化しているということである。自治会の会員がどんどん減っていくような状況の中で、どう地域と関わりをもって、社会の中で生きていったらいいのかというのは非常に大きな問題と思う。スポーツや文化事業にはたくさんの市民が参加している。そんな中例えば今日はあの人がいない、2カ月連続で欠席だったがどうしたのだろう、と思ってもらえるようなコミュニティを作っていないといけない。だから、我々がコンサートを開催した時も、必ず参加する人が来てない時などは職員に電話をさせるようにしている。そういった小さいところからコミュニティを作っていくと

思っている。

また、高齢化がすごく進んでいるのを感じる。これまでコンサート等で遠くに行っていた方たちを、遠くまで行かずともアミーゴでも素晴らしい上質な芸術文化が楽しめるということをアピールしていきたいと考えている。また、子ども達の居場所、サードスペースがなくなっていると考え。学校と家庭、その次がない。それを我々が作っていきたい。このあたりは地区センターとの連携も関係するのではと考えており力を入れたい。特にコロナ禍で遠くより近くが見直されてきており、アミーゴを今までのような公演やコンサートをするだけの施設ではなく、いつ来ても遊べる場所を作ろうということで、今年度より、いつ来ても何かしらできるようにお絵描きや昔遊びが出来たり、本を置き寝転んで見られたりするスペースを作った。子どものサードスペースづくりに力を入れている。こういったことが地域課題の解決ではないかと思っている。

地区センターとの連携についても、一緒に事業をしたり、これまでアミーゴが蓄積してきている文化芸術に関するものを、連携してできたらいいと思っているので、市からも相談いただけるとありがたい。いつでも協力する。

委員：これまで15年間指定管理をしてきて、事業運営がうまくいっていることを判断する目安のようなものはあるのか。例えば利用者数は一番わかりやすい指標だと思うが、他に何か指標はもっていたりするのか。

応募者：数字的なものになると、利用者数や利用率といったものになってしまうが、それ以外となると、現在プラン推進会議を月に1回行い、市民ディレクターや職員にお客様からヒアリングをするよう指示しており、その報告をさせている。その中でお客様からお褒めの言葉が増えてきており、数字ではない資料となっている。それ以外では、お客様から声をかけられることが多くなってきたと感じている。これまでは我々からお客様に対して声をかけなければならなかったのが、それまでのコミュニケーションがしっかりしてきて、我々に対しても安心感をもって接してきていただけるのかなと感じている。

委員：15年間続けていると、一般的にはどうしてもマンネリになりがちなところもあるかと思うが、工夫や心掛けていることがあれば教えていただきたい。また、今回4期目として手を挙げていただいたが、そういった課題に対する対応も含め今後の意気込みを聞かせていただきたい。

応募者：マンネリに陥らないためにいつも考えているのは、研修を必ずさせることで、都内で毎年、文化施設はこうあらねばならないといったことをテーマにした研修に職員やディレクターを参加させている。また、アドバイザーの力を借りて、様々

な文化施設での取り組みからアドバイスをいただいております、毎回刺激を受けている。

次期に向けての意気込みとしては、やはり継続していくことが文化芸術において一番大切なことだと思っている。15年間で培った地域との関係、住民の人たちと仲良くするための方策を考え、一緒になってやってきたこの礎を大切にしていくなめには継続しかないと考えている。だから、我々がやらずに誰がやるという気持ちで、これからも施設を中心に、入間市のど真ん中を我々が引っ張っていくという気持ちで取り組んでいきたい。

事務局：以上で質疑応答を終了とさせていただきます。

(2) 委員からの講評

委員長：応募資料および本日のプレゼンテーションを受け、各委員から意見、感想があればお願いしたい。なお、あくまでも採点は各委員の自己判断が大前提となるが、専門的な見地から述べておきたいことや、相互確認しておいたほうが良いことなどがあれば述べていただきたい。

委員：人員配置やシフトの考え方について、心配なところがある。さきほど職員の熱意といった意見もあったが、熱意にも限界はあるので、しっかりと休みをとれる体制や不満のない報酬といったことが望まれる。

委員：財務面は特に問題ないと思う。資金の収支の方も赤字が出ない形で進めており問題ないと思う。自主事業収入170万円の積算についての説明には齟齬があるのではないかなと感じた。

委員：応募者からの説明にあった「情熱」というのは本当に大切であると感じている。応募者の「熱意」に惹かれて、ボランティアも集まってくるのではないかと考える。点数をつけるのは難しいが、こういった「情熱」も考慮して採点したい。

委員：15年間、4つの柱でやってこられたことはすごいと感じたが、成果が少し物足りなく感じた。また、プレゼンテーションでは少ししか触れていなかったが、自由提案をたくさんしていただいております、テラスを活用したカフェ事業やシェアサイクルとか、市の協力がなくて難しいことだとは思いますが、市民の力を活用した部分がすごく活かしている事業だと感じた。

委員：感想としてはもう非常に意欲的な提案で、これまでの成果を生かして、今後も継続してやっていただくといいだろうなと思った。ただ、15年間継続してやっていただいていることもあり、指定管理者が考える運営理念が、目標、方針と市の所管課が考える施設の目的と乖離が生じないようにする必要があると感じ

た。指定管理者として決まった場合には、提案される新たな事業が、市が考える方向性とマッチした運営がなされるように調整されればいいのかなと感じる。行政側でもしっかり見極めて調整いただきたい。

委員：今後の管理をどう継続していけるかという視点で見させてもらった。いくつかの事業も提案してもらい、いい部分として熱意も感じられたのだが、それに伴う財源をどう確保していくのか、市の協力は極力少なくなるようにするにはどうしたらいいかといったことが疑問であった。また、職員に研修をとの説明があったが、決算をみるとコロナの影響もあるかと思うが支出がない状況であり、収支計画では研修分として交通費しか計上されていない。そこに力を入れるならもう少し予算をとってもいいのではと感じた。熱意や熱い思いというのは強く感じた。

委員：15年間の実績は高く評価できるし、熱意や情熱というのは今回のプレゼンで強く感じる事ができた。これからの5年間をお願いするとすると20年になるわけで、余人をもって代えがたいということになるであろう。その場合にあっても市とお互いに意思確認を図りながら、長くやっていくということになると課題も多く出てくると思うので、手を携えながらやっていく関係性を構築する必要があると感じた。

委員長：他に確認したい点等なければ、講評は以上とする。

(3) 地域振興課からの意見・感想

委員長：入間市文化創造ネットワークは、市民アンケート、モニタリング、第三者評価においても高い評価を得ている。特に第三者評価において、「市民とともに創り上げるプロセスを大切にしながら、多様な機関や団体とのネットワーク、市民ボランティアと連携する姿勢は、まさに公共施設運営の模範となるべきものとして評価されます」とか「新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中でも、常に前向きに施設の有用な役割を探求し、アウトリーチ事業にも柔軟に取り組み、常に地域に新しい提案をしていく姿勢は、まさに「文化創造」の名にふさわしいものとして評価されます」との評価まで得ている。ただ今のプレゼンテーションにおいても、文化創造アトリエの設置目的に相応しい提案、それから、他にはない施設の特徴を活かした新しい提案や with コロナに即した創意工夫が示されたと考える。こうしたことから、地域に根差した文化創造に資することが期待できると感じた。

7 その他

審査票の提出と次回の日程について

10月4日（火）までに審査票をデジタル行政推進課に提出していただきたい。次回の第6回は入間市博物館に係るプレゼンテーションを9月30日（金）に開催する。委員全員が出席する委員会は10月13日（木）に開催予定である。

以上